

週刊誌の早業

四月五日(清明節)に、天安門広場で、周恩来首相を擁護する群衆が暴動を起した。花輪が撤去されたことへの抗議だった。党中央政治局は、これを階級敵の反革命事件と決めつけ、二百後鄧小平派の非政治的行動は、走資派の懐疑という政治的意味を含んでいる。知中派者らしい解説。

論壇時評

「文芸春秋」の八中国を解りかまっただ。半・食糧問題(は(例)によって臨死せる(名)が)プロレタリア統計の取ま孔明生(人)性をあはけ仕方で、前回ける仲達 紹介した大衆が旧実権(走資)派を走らる。モデル地区桃園に対抗するたすとい、文革派が巨額の援助をして作う中固故り上げたものだという。文革以降、国から大衆への農業

(なら)えは八死せる恩来、生け 基盤構造改善事業援助は七〇%近く増加している。この事実も当然の沢東を走らすとでもいうが。大衆の人びとが筆々と公表している「朝日ジャーナル」4・16号は、早速中嶋嶺雄八底流に毛沢東政治への批判を載せ、4・23号で特集を組み、竹内実八権力と概念と民衆の他を載せた。月刊誌で 文革派と実務派との党内抗争に

ついでに「現代の眼」の社説君 社会(じ)によると新卒のイキのよさ(は)三三年経(た)つとぬるま湯(に)ひたるソネリと化する。そのはイデオロギー・政治・文革・階級闘争至上の八紅Vと、技術・経済・生産・安定団結至上の八専Vとの対立。だが走資派は位Vを追う出世型、教師の出世の判の直接のきっかけは八紅V(思)たいという願望について栗田俊一(想)か八専V(我)徳かという清(八)わたしの内なる中教路線(八)菊雄八英語の早期教育は必要か(という俗説もある。

恩来、沢東を走らす

竹内実氏の知中派の文章



建元正弘

「現代の眼」の社説君 社会(じ)によると新卒のイキのよさ(は)三三年経(た)つとぬるま湯(に)ひたるソネリと化する。そのはイデオロギー・政治・文革・階級闘争至上の八紅Vと、技術・経済・生産・安定団結至上の八専Vとの対立。だが走資派は位Vを追う出世型、教師の出世の判の直接のきっかけは八紅V(思)たいという願望について栗田俊一(想)か八専V(我)徳かという清(八)わたしの内なる中教路線(八)菊雄八英語の早期教育は必要か(という俗説もある。

育の目的は何かVは、ある自突然(以)もて姓名を記すれば是る武(の)道具と見るか? 道具なら中国(に)右(左?)へならえしてコレ(に)ヌター植字の字母を愛えたらよ(し。他方日本人の子供は漢字を、夫とは何かVと「中央公論」の角(的)Vなのだ。

「中央公論」の八防衛生産のシ(ン)マV座談会では佐伯晋一・元(に)ついては「エコノミスト」3・防衛研究所所長に対し、佐藤滋・元(通)理次官が非武装中立の現実性(を)強調している。同誌の志水速雄(八)日本海と対潜哨戒機Vでは、日(本)海防の制海権はソ連にあり、津軽(海)峽を原子力潜水艦を含む五十隻(年)間)が通過しているという殺(し)文句が出てくる。世論調査によ(る)と「安保体制と自衛隊で安全保(障)との回答が五四%とか。今後(は)新しい波となるかVで新規提案を(は)四次防以後の八基盤的防衛力V(の)費用・効果分析などもっと冷(たい)経済計算の論議(国防の経済(学)も)行われるべきだろう。二、三の話題。「朝」の(今)月は興味ある対談が二つ出(た)。一つは「展望」の松下圭一(か)「現代の眼」の八北方(宮)崎義一八「市民的共和」の可能(性)一国家・法人企業組織・市民V(八)「思想の科学」の八(動)かすところである。「朝」は(道)入日本の安全保障についてV(先)月に引き続きロッキードはセ(ン)セーショナルな編集者の食指を(論)点としては「諸君!」の猪木正(動)かすところである。「朝」は(道)入日本の安全保障についてV(先)月に引き続きロッキードはセ(ン)セーショナルな編集者の食指を(論)点としては「諸君!」の猪木正

が自虐的自批判を吐露して(る)。教育を支配しようとする文部(権)力は、教師の心にひそむ出世(たい)という感情をたくみに衝(つ)いてくる。貧しい美女(教師)の(前)で札束(志)任制をチラつかせ(る)なみよ井さんも罪なことを遊(ば)すこと。

「朝日ジャーナル」4・9号は(八)多国籍汚職を解剖するVを総特(集)。「現代の眼」は八資本の魔性(在)Vを特集。漢字を文化(す)なわ(ち)余分なゆとり)とするか、字は(「諸君!」も)ロッキード・ス(キ)日本の国防の歴史、安保の問題点(に)よって構成されている現代社会(天)阪大学教授・国際経済

を整理するまで筆者はたいへん(を)住みよい社会に改革していく(方向)が模索されている。もう一つは「月刊エコノミ(ス)ト」の特集で伊東光晴・力石定(一)八金融V(家)計・産業銀行の(あ)るべき姿を問うVである。金融(レ)ンマV座談会では佐伯晋一・元(に)ついては「エコノミスト」3・防衛研究所所長に対し、佐藤滋・元(通)理次官が非武装中立の現実性(を)強調している。同誌の志水速雄(八)日本海と対潜哨戒機Vでは、日(本)海防の制海権はソ連にあり、津軽(海)峽を原子力潜水艦を含む五十隻(年)間)が通過しているという殺(し)文句が出てくる。世論調査によ(る)と「安保体制と自衛隊で安全保(障)との回答が五四%とか。今後(は)新しい波となるかVで新規提案を(は)四次防以後の八基盤的防衛力V(の)費用・効果分析などもっと冷(たい)経済計算の論議(国防の経済(学)も)行われるべきだろう。二、三の話題。「朝」の(今)月は興味ある対談が二つ出(た)。一つは「展望」の松下圭一(か)「現代の眼」の八北方(宮)崎義一八「市民的共和」の可能(性)一国家・法人企業組織・市民V(八)「思想の科学」の八(動)かすところである。「朝」は(道)入日本の安全保障についてV(先)月に引き続きロッキードはセ(ン)セーショナルな編集者の食指を(論)点としては「諸君!」の猪木正